

マーケットの動き (2024年10月28日～11月1日)

先週の国内債券市場は、前週末比で金利はほぼ横ばいでした。衆院選で与党の獲得議席が過半数割れとなったことを受け、政権維持のために野党と連携することによる財政拡張懸念が意識され、債券は売られました。その後は日銀金融政策決定会合後の記者会見での植田日銀総裁の発言を前に持ち高調整による買いが優勢となりましたが、会見を受け追加利上げ観測が強まると債券は売られ、ほぼ横ばいで週を終えました。クレジット市場は、堅調に推移しました。

投資環境見通し (2024年10月)

国内長期金利は徐々にレンジを切り上げる動き

日銀は政策金利を据え置き、同総裁は経済・物価見通しが実現していけば、政策金利を少しずつ引き上げるとの方針を堅持しつつも、追加利上げの判断時期に関して「時間的な余裕」があるとの認識も示しました。国内長期金利は、日銀の利上げを継続する姿勢は上昇要因とみられますが、すでに円安が一服していることから米国景気の動向を見極めつつ、追加利上げを急がない姿勢とみられます。国内長期金利は日銀の利上げ姿勢を注視しながら、徐々にレンジを切り上げるとみています。

	11月1日	変動幅 (騰落率)			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り (日本、%) (変動幅)	0.95	▲0.00	0.10	0.06	▲0.02
NOMURA-BPI総合 (騰落率)	360.34	▲0.03%	▲0.56%	▲0.39%	0.36%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

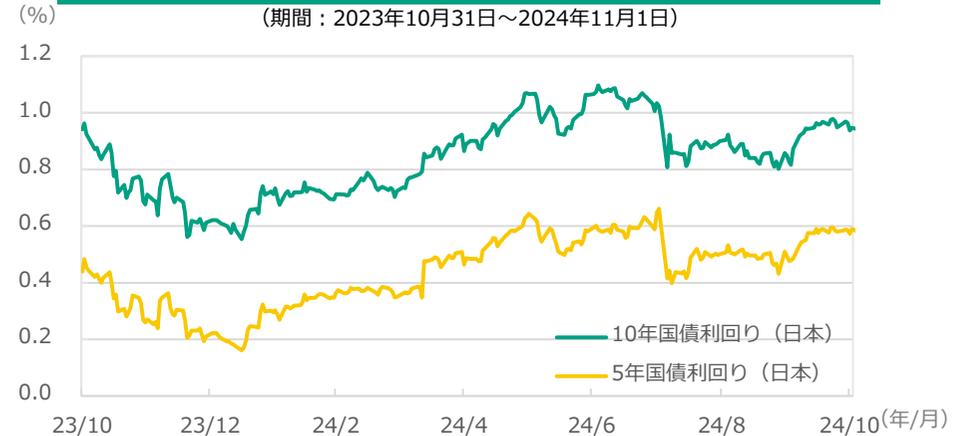
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202410_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類 (目論見書等) ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し (総合) の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

(期間：2023年10月31日～2024年11月1日)



NOMURA-BPI総合指数の推移

(期間：2023年10月31日～2024年11月1日)



※2023年10月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成